



EDGE IIIトレモロ

EDGE IIIトレモロは、Lo-Pro Edgeの血統を受け継ぐ、強度と安定性に優れたIbanezのオリジナルトレモロです。ダブルロックタイプのトレモロに必要な機能は勿論のこと、独自のアイデアとオリジナリティ溢れる外観を高次元で両立させています。

トレモロアームの取り付け

トレモロアームは差し込み式です。ベースプレートのアーム挿入穴(Fig. 1 A)に確実に挿し込んでください。トレモロアームの締め付けは挿入穴の後方、ベースプレート側面の調整穴からトルク調整スクリュー(Fig. 1 B)を六角レンチ(2mm)で回して調整します。スクリューを時計方向に締め込む事で締め付けが増し、逆に緩めることで締め付けが緩くなります。トレモロアームの取り付け高さはギター裏側のトレモロ・スプリング・カバーを取り外し、トレモロ・ブロック底面に取り付けられた高さ調整スクリュー(Fig. 1 C)を六角レンチ(3mm)で回して調整します。時計方向に締め込むほど取り付け高さが高くなります。

⚠️ ご注意

トレモロアームのトルク調整スクリューは、(Fig. 1 B)の位置と、高さ調整スクリュー(Fig. 1 C)の下方との2箇所にて設けてあります。調整スクリューはあらかじめ出荷時に調整されていますが、調整が必要な場合はトレモロをギターから取り外した状態で行ってください。

EGEN8に搭載されるEDGE III Herman Li Ver.のトレモロアームはねじ込み式です。トレモロアームをトレモロ本体に挿入後、回転させて締め込みます。トレモロアームの締め付けトルクの調整方法はEDGE IIIと同様です。

⚠️ ご注意

トレモロアームを取り付ける前に、トレモロアーム固定スクリュー(Fig. 1 C)が緩んでいないことを確認してください。

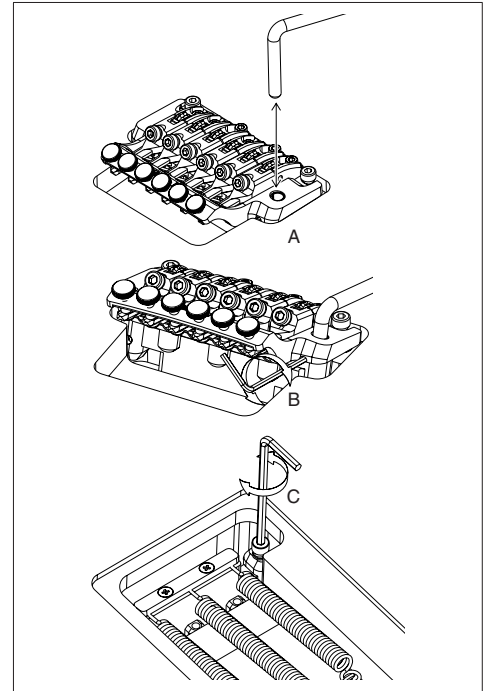


Fig. 1

トレモロの取り付け角度調整

トレモロの取り付け角度は、弦の張力とギターのボディ裏側に装着されたトレモロ・スプリングの張力とのバランスで調整します。トレモロがギターのボディ表面とおおよそ平行になるようにセッティングすることで、最も優れた性能を発揮します(Fig. 2)。調整は、ギターボディ裏のトレモロ・スプリング・カバーのスリットからプラスドライバーを挿入し、トレモロ・スプリング・フックのスクリューを回して行います(Fig. 3)。正しくチューニングした状態で、トレモロが前方へ傾いている場合は、スクリューを締め込んでスプリングの張力を強くします。トレモロが後方へ傾いている場合は、スクリューを緩め、スプリングの張力を弱めます。

トレモロの取り付け角度調整は、スプリングの張力を調整するたびに弦の張力とスプリングの張力とのバランスが変化するため、チューニングに影響を及ぼします。チューニングを繰り返しながら調整してください。また、異なるゲージの弦に交換した場合等、弦の張力が大きく変化する場合には、トレモロ・スプリングの取り付け方や本数を変更する必要がある場合があります。

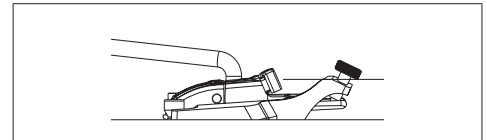


Fig. 2

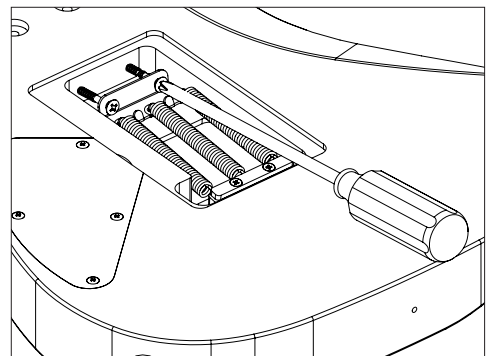


Fig. 3

弦高調整

トレモロ本体左右のスタッドボルト (Fig. 4 E) を六角レンチ (3mm) で回して、トレモロ全体の高さを調整します (各弦の調整は行えません)。

イントネーション調整

ロッキング・ナットのプレッシャー・パッド・ボルト (Fig. 5 H) を六角レンチ (3mm) で緩め、十分に弦を緩めます。サドル・ロック・ボルトを六角レンチ (2mm) で緩め (Fig. 4 F)、サドル位置を調整します。サドル・ロック・ボルト (Fig. 4 F) をしっかりと締め、チューニングを行ってからイントネーションを確認します。正しいイントネーションが得られるまで同じ調整を繰り返した後、ロッキング・ナットのプレッシャー・パッド・ボルト (Fig. 5 H) を締めてください。

⚠️ ご注意

サドルロックスクリューを緩めるときにはかならず十分に弦を緩めてから調整を行ってください。

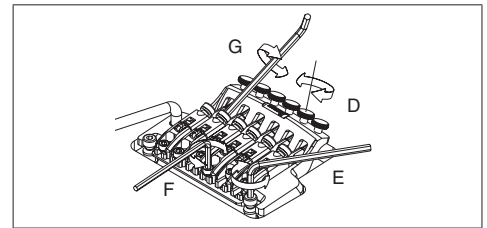


Fig. 4

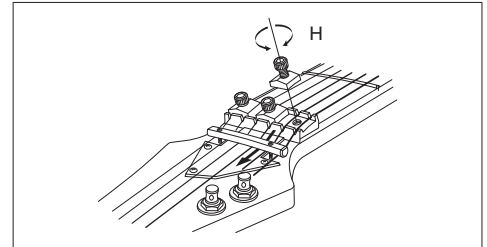


Fig. 5

弦交換

ロッキング・ナットのプレッシャー・パッド・ボルト (Fig. 5 H) を六角レンチ (3mm) で緩め、糸巻きから弦を取り外します。トレモロ本体のストリング・ストッパー・ボルト (Fig. 4 G) を六角レンチ (3mm) で緩め、サドルから弦を引き抜いて取り外します。新しい弦は先端のボールエンド部分をニッパー等で切り落とします (Fig. 6)。ボールエンド部を切り落とした側の弦の先端をサドルとストリング・ホルダー・ブロックの間に挿入し、ストリング・ストッパー・ボルトを締めて弦を固定してください。糸巻きで弦を巻き上げ、チューニングを行います。チューニングが完了した後、ロッキング・ナットのプレッシャー・パッド・ボルトを締めてください。

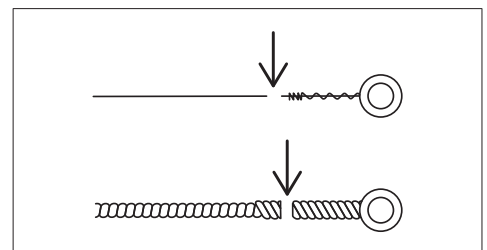


Fig. 6

⚠️ ご注意

全ての弦を一度に取り外すとトレモロの取り付け角度が大きく変化するため、弦交換は1本ずつ行うことをお勧めします。全ての弦を一度に外す場合には、トレモロ後方にクロス等を挟み、トレモロ本体とボディ表面が平行を保つことができるようにするとチューニングが比較的容易に行えます。

チューニングする前に、ストリング・ストッパー・ボルトがしっかりと締め付けられていることを確認して下さい。

ファイン・チューニング

ロッキング・ナットで弦をロックした後でも、ファイン・チューナーによって各弦のチューニングの微調整が行えます。チューニングの前に、あらかじめすべてのファイン・チューナー (Fig. 4 D) を可動範囲の中央付近に調整しておく、弦をロックした後の調整幅を広く持たせることができます。